

四万十市体験型観光 受入研究会だより

近年の観光ニーズは、見る観光から体験する観光へとかわってきています。修学旅行を初めとする体験型観光は、交流人口の拡大や都会の生徒と地域住民との触れ合いの中で地域活性化が図られ、一方、学校側からは、机の上では学べない貴重な学習の場となっていると評価されています。

幸い幡多地域には、これら体験型旅行の誘致や受入に取り組んでいる幡多広域観光協議会があります。当協議会は体験型教育旅行の受入組織として平成7年に設立され、平成22年6月には社団法人となり、同年11月には第2種旅行業を取得し、現在では、一般の体験型旅行をはじめとする着地型旅行の誘致などにも取り組んでいます。

また四万十市内では、平成17年に体験型観光の受入に賛同する地域や団体が集まって、四万十市体験型観光受入研究会を発足させ活動を行っています。

今後は、広報誌等を通じて、この研究会の取り組みを紹介していく予定ですので、賛同される方はぜひご連絡ください。

今月号では、東富山地域で行われた教育旅行（民泊）の様子を紹介します。

問 四万十市体験型観光
受入研究会事務局(観光課) /
☎(34)1783



自然いっぱい の東富山で農村生活体験 〜尼崎市立塚口中学校3年生と 地元農家との交流〜

5月18日、19日、東富山地域の農家12戸(三ツ又5戸、常六2戸、片魚5戸)が兵庫県尼崎市立塚口中学校の3年生34名の農村生活体験を含めた民泊を受け入れました。

三ツ又地区の生徒たちは川での魚釣りを体験し、この地域に残る自然の魅力を満喫していました。そして、その日の夕食は地元でとれる川の幸、山の幸を使った料理の数々。田舎寿司やタケノコの煮物などを、「おいしい」「こういうお寿司は初めて食べる」といながら楽しくいただいています。



翌日は、地区ごとの体験学習。片魚地区では豆腐づくりを学びました。まずは、豆腐づくり用に使うまきのまき割り体験。なかなかうまく割れず、最初は苦労していましたが、徐々にコツをつかみ、そして、豆腐づくりの過程には興味津々と

いった感じで作業に没頭していました。そのほかにも、お茶摘み、らっきょうの漬物づくり、木工・竹細工などの体験をしました。
民泊終了後のお別れ式では、「自分が泊まった家が一番よかった」とそれぞれが自慢していました。
生徒たちは、この地域の自然や農家の方たちとの触れ合いのなかで、多くのことを学ぶことができたことでしょう。

